生涯学習

No.451

かおり高い文化のまち

発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.shimosuwa.lg.jp

下諏訪社中学校の取り組み

自分を大切にするということ

～学校教育活動の中で人権感覚を育てる～

自分と向き合う 個性を尊重しあう

生徒たちは、自分の長所・短所を考える中で、良い面に目を向ける大切さとその難しさに気づき、「私の富士山」という資料を読んだ。顔の真ん中にある大きなほくろにコンプレックスを感じていた少女が、美術の時間にお互いの顔をスケッチした時、隣の席の男子がそっと小さなほくろを描いてくれた優しさにふれる中で、ほくろは自分になくてはならないものだと気づく様子が書かれている。生徒たちは、自分の心の柔らかい部分を人に差し出す勇気と、その部分に不用意に触れられることの痛みを知り、身体的・心理的な違いや個性を受け入れ、尊重しながら共に生きていくことのすばらしさを感じ取った。

自分の嫌なところは誰にでもあると思うけれど、そのこととどう向き合っていくかで、自分が好きになれるか、嫌いになるかが分かれるんじゃないかなと思いました。私にもある嫌いな部分が、いつか好きな部分に思えたらいいなと思いました。

支えてもらう自分 支えてあげる自分

生徒たちは自分が困った時、どんなふうに解決してきたのだろうという問いに、じっと我慢する、友達に相談するなどの答えを出した。そしてそっと自分に寄り添ってくれる存在や、自分が真の答えをくれる人を求めていることに気づいていった。

絵本『だいじょうぶ だいじょうぶ』(いとうひろし作・絵)の読み聞かせを聞いた。おじいちゃんの「だいじょうぶ」という魔法のことばに支えられて、強くたくましく、そして優しく成長していく男の子の様子から、いつも温かく支えてくれる存在の大きさや、受けた優しさを返し広げていく大切さを学んだ。

困ったり悩んだりしても、何か自分が強くなれるきっかけがあれば解決できるんだと思った。はげましてくれたり支えてくれたりする人がいるから、自分も変われるのだと思った。支えてくれた人が困ったり不安なことがあったりしたら、次は自分が支えるような人になりたい。

命の尊さの実感

三年生は諏訪マタニティクリニックで、育児・保育体験をした。乳児室、乳房外来、託児室に分かれ、だっこやおむつ替を体験したり一緒に遊んだりと、二歳未満の子どもたちとふれあった。小さな命をその手に抱くことで、生徒たちは命の尊さを感じ、また自分自身にもそのような時があって、いろいろな人に愛され、大きくしてもらったのだと実感していた。また、佐藤良裕先生(東海大第三高校)による性教育講話をお聞きして、性病に関することや、望まない妊娠など、怖い性もあることを学んだ。

日々、学校教育活動の中で、人権感覚を育てる実践を大切にこれからも推進していきたい。

命の尊さを実感する生徒

企業の立場から

多様性

荻原製作所 総務G
中村 あや子

もう二十年ほど前になりますが、大学でイネの育種学を専攻していました。教授のおっしゃった印象的な言葉が「遺伝的多様性」。様々な遺伝資源から有用なものを選び、品種改良に使う。研究室には金色、紫色、籾(もみ)の長いもの短いもの、矮(わい)性、多収性、耐病性など、様々な形質の籾が保存されていたのを記憶しています。

現在、「生物多様性」は環境分野のキーワードとなっていますが、人事面でも「多様性」という言葉はよく使われます。性別・年齢・国籍などの属性を超え、幅広い知識や価値観の中から、新しいものを生み出す力を育んでいく。現実はどうでしょうか。

以前参加したハローワーク主催の人権啓発研修会では、採用面接の質問事項に関する問題が取り上げられていました。家族の職業・健康状態等本人に責任のない事項や、尊敬する人物など思想信条に関わることを尋ねることは、本人の適性や能力に無関係である等々。毎年研修会が開かれるということは、まだまだ本当の「就職の機会均等」が浸透していないということでしょうか。自分が面接をする際はどうだろう、と考えさせられました。

人間は本来凸凹(でこぼこ)しているもの。足りない所を補いあって企業は成り立つ、というのは最近読んだ本の受け売りですが、「違い」を認め合い、自分にないものを発見することはすばらしいこと。植物の遺伝子もその多様さから相互作用を起こすように、人と人も相互作用でより良い方向へ進んでいけたらいいなと思っています。

外国人実習生

武藤工業㈱ 総務担当
豊野 健一

現在、弊社(へいしゃ)には技能実習制度を利用して、十七名の女性中国人技能実習生が在籍しています。技能実習制度とは日本で培(つちか)った技能・技術・知識を本国へ活用してもらうための制度です。

彼女たちは、やる気に満ちて日本に来ます。

しかし、来日直後は外国で暮らすことや、生活習慣の違いなど様々な不安を抱えています。日本語のレベルも勉強して来ているとはいえ、小学生の低学年程度です。

そこで、受け入れ先の企業として、彼女たちに対して不安を取り除くように、配慮や指導に努めています。

彼女たちは日本でマナーや言葉に気を使いながら、知識や技能の取得を目指して一生懸命学んでいます。それでも、日本人との労働価値観や生活習慣、文化の違いなどからコミュニケーション不足もあいまって、問題が起きることがあります。

起きた問題を一つ一つ解決していくのも大事ですが、やはりもっとコミュニケーションをとり理解しあうことが、お互いにとっても企業にとっても、大切だと思います。